

平成25年度天皇杯受賞者受賞理由概要  
むらづくり部門

世代を超えて「水」に対する感謝の念を共有し郷土を守るむらづくり

○集団等の名称 田代自治会 (代表 前原 良一)

○所在地 宮崎県えびの市

○受賞理由

・地域の沿革と概要

- ① えびの市は、南九州のほぼ中央に位置し、熊本県及び鹿児島県の県境に接している。総面積は283km<sup>2</sup>、平均標高は約230mであり、市の中央部には、えびの盆地が広がる。
- ② 田代集落は、えびの盆地の南西縁辺部に位置し、湧水を利用した水稻栽培や、野菜栽培、酪農・畜産業等が盛んな地域である。

・むらづくり組織の概要

- ① 明治初期に手掘りの地下水路が建設されて以来、水底まで青く澄んだ水をたたえる小池(湧水池)と陣の池(ため池)を水源として水田農業が営まれる過程で、水と土地に対する畏敬・感謝の念が育まれ、住民に引き継がれている。
- ② 昭和50年頃、自治会が中心となり、「営農維持」「資源保全」「情報発信と交流」の3つの目標を設定する中で地域住民の意識的な活動が始まった。
- ③ 平成4年度から「中山間地域農村活性化総合整備事業」が実施される過程での話し合いを通じて集落の農地は集落で守るという意識がまず農家に芽生え、それが現在の集落営農や非農家住民をも巻き込んだむらづくりにつながっている。

・むらづくりの取組概要

(1) 農業生産面

- ① 平成19年度から開始された農地・水・環境保全向上対策等の取組を通じ、農作業受託組合が組織され、若者を中心とした5名のオペレーターが地域農業の担い手として主導的な役割を果たしている。
- ② また、自治会活動を通じ、非農家住民に集落内の資源の重要性を理解してもらう取組により、現在は農道、水路等の保全管理活動を住民総出で実施している。
- ③ 集落の認定農業者13経営体のうち、5経営体では既に20代から40代の若手後継者へ経営が移譲され、後継者の中では、農作業受託の株式会社を設立したり、農産物の販路開拓に取り組んだりする者が生まれるなど、新たな農業の展開が図られている。

(2) 生活・環境整備面

- ① 平成21年度に、地域内の20代から40代の若者を中心に結成された「ひまわりロードプロジェクト」は、約30年前に途絶えた夏祭りの復活、集落住民に対する公民館だよりの発行等を通じて、他地域との交流や集落内における世代間の交流に貢献している。
- ② 若者が各世代、各組織の仲介役になって、宮崎県無形民俗文化財「打植祭(うちえさい)」をはじめとする伝統文化を継承し、集落の一体感と世代間の結びつきを強めている。

・他地域への普及性と今後の発展方向

当該自治会の取組は、地域の起源である「水」に対する感謝の念や「田の神(たのかん)さあ」への信仰心など、地域として守るべき価値観を世代間で共有しながら、新たな発想も大切にし、年配者、若者、女性が同じ目線に立って活動しているものであり、全国のむらづくり活動のモデルになり得る事例である。